

音声通話トラヒックについて

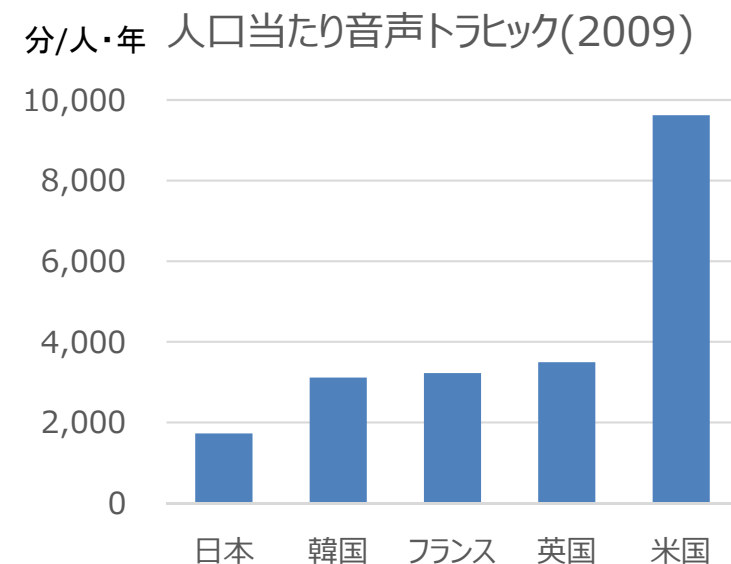
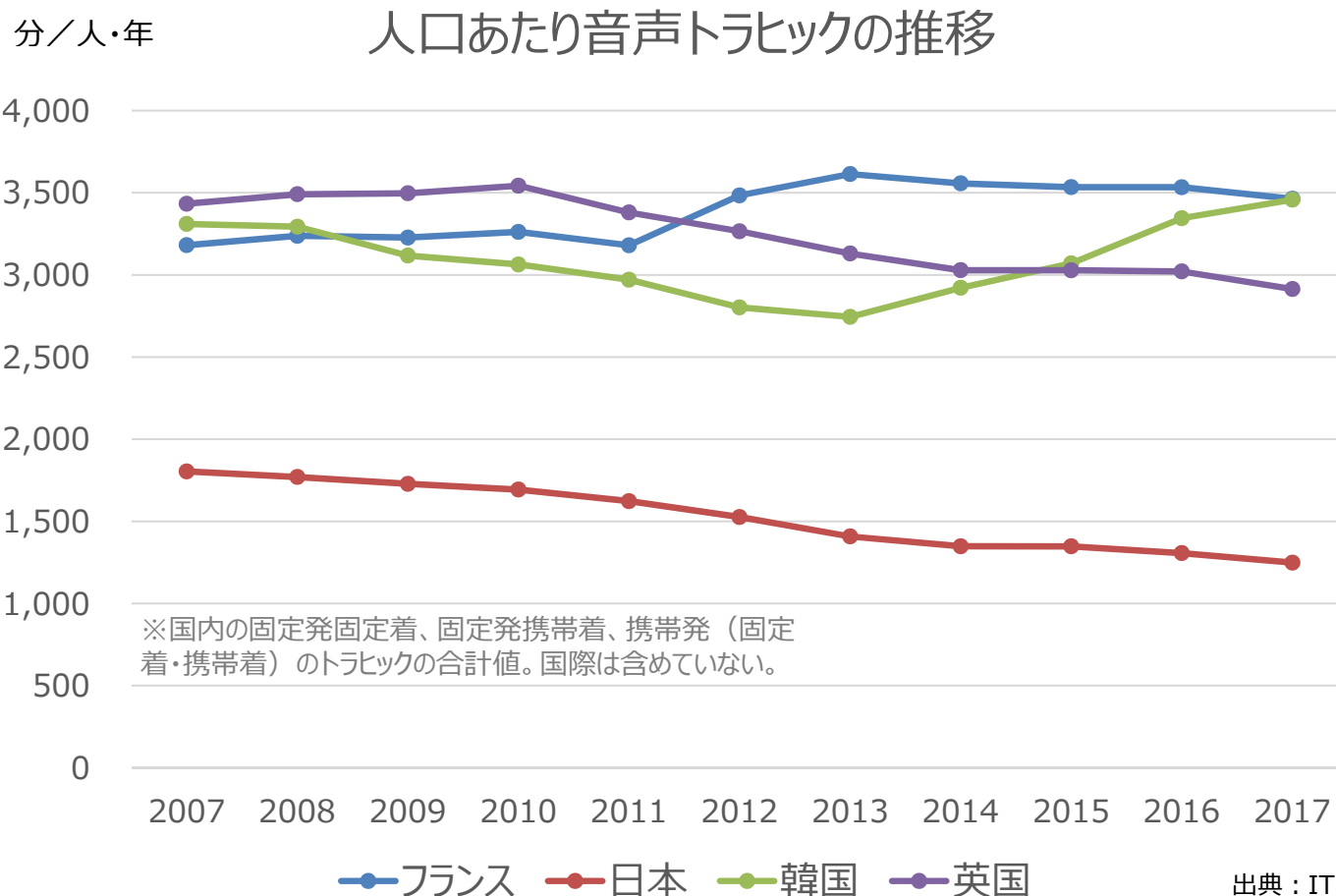
2020年6月9日

MRI 株式会社三菱総合研究所

音声通話トラヒックの国際比較

■ 国民一人当たりの音声通話トラヒック（分数）の国際比較

- 一人あたり通話分数は、**米国が最も多く、英・仏・韓は1/3程度、日本は1/6程度の水準**(2009年時点)。
- 2007→2017の期間において、日本では大幅減少する一方、**仏・韓では増加**している。
増加している仏・韓では、**増加の主因は携帯発トラヒックの大幅増**である。



※米国の数字はMRI推計値

固定発携帯着、携帯発は2009年実績値、固定発固定着は2005,2006年実績値を基に2009年の値を推計

出典：ITU World Telecommunication/ICT Indicators (WTI) Database 2019
のデータを基に、MRIが集計・分析